

NO! リニア

No. 163

2023年1月13日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス↓



難工事は静岡工区以外にも多くある! ? 丹羽次期社長が表明!

JR東海次期社長に丹羽副社長が就任することがマスコミで報道されました。丹羽副社長は1月11日の記者会見で、リニアの開業時期について「**静岡工区の課題以外にも難しい工事が多くあり**、現時点では申し上げられない」と述べました。

この発言は、静岡工区以外でも工事が遅れていることを表明したということではないでしょうか。しかも、「難しい工事が多くある」ことも明らかにしています。

現在、品川工区ではシールドマシンの予期せぬ故障で工事がストップし、工事再開の目処は明らかにされていません。これが「難しい工事」の1つなのでしょう。神奈川県車両基地においても、全ての用地買収はされておらず、工事が遅れています。このような状況にもかかわらず、会社経営陣は口を揃えて「静岡工区だけが手つかずだ。他の工区は順調に工事が進んでいる」と、静岡県だけが工事の足を引っ張っていると主張し続けています。そうすると、今まで言ってきたことと、丹羽副社長の会見発言は180度異なります。

また、丹羽副社長は「リニアはJR東海にとって重要なプロジェクト。大規模災害や東海道新幹線の老朽化に備えて必要」と述べています。この発言は、東海道新幹線の輸送力限界はないことを示したものです。そして、旅客需要はコロナ禍前に戻るといふ幻想を捨て、コロナ禍による輸送量減少が回復しないことを暗に認めたことになるのではないのでしょうか。過去、会社経営陣は、東海道新幹線の輸送力限界説でリニアの必要性を主張しました。リニアを必要とする理由は二転三転しているのです。

リニアは非現実的です。いつまでも夢物語を見てはいけません。直ちにリニア建設を中止すべきです。